

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

				No.	29-002		
PDCA	事務事業名	図書館資料整備事業	部課等名	教育部 図書館	担当 内線等	野不雄 23-7171	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第5章 育ち合い共生を進めるまち					
		節： 第2節 生涯学習の推進					
		基本施策： 1. 生涯学習					
		単位施策： (4) 図書館の利用促進					
根拠法令等	図書館法、半田市立図書館条例						
対象・目的	図書館資料の利用を促進するため、資料の整備にあたっては、利用者のニーズや社会動向を把握する中で、司書が内容を確認し、充実を図っていく。						
目的を達成するための手段・活動内容	図書館資料（書籍、視聴覚資料等）を司書が内容を確認したうえで購入する。窓口では貸出、返却の業務の他、本の相談（レファレンス）を積極的に行う。図書館だよりやホームページ、SNSなどで新着図書情報を公開し、予約を窓口の他にインターネットで受け付ける。						
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	29年度	30年度	元年度	単位	
		①資料購入実績	19,498	18,288	18,066	点	
		②蔵書点数	489,803	473,381	472,147	点	
		③貸出点数	1,041,592	1,018,227	901,938	点	
		④予約（リクエスト）件数	60,584	57,418	54,480	件	
		内、インターネット予約件数	38,964	38,300	37,474	件	
		事業費	31,713	31,434	31,447	千円	
		人件費	83,235	83,069	88,163	千円	
		総事業費	114,947	114,503	119,610	千円	
		活動単位当たりのコスト	29年度	30年度	元年度	単位	
	①市民一人当たりの資料購入費	245	243	243	円		
	成 果	成果指標	29年度	30年度	元年度	単位	
		①市民一人当たりの貸出点数	実績値	8.7	8.5	7.6	点
		目標値	9.0	9.0	8.9		
		実績値					
		目標値					
		実績値					
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	中程度	⑦コスト削減余地	ない
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある		
	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ない	
	事業の評価・課題	C					
		児童書について、当館では学校の科目に合わせた独自の分類を用いていたが、子どもたちが利用しやすいよう、学校図書館で使用している分類方法にあわせて、データ、ラベルを変更した。あわせて内容の古くなった閉架書庫の児童書を多く除籍し、開架から閉架へ資料の大量の異動を行った。棚が詰まり気味だった児童書架に余裕ができ、児童が本を手に取りやすくなった。図書の購入に際しては、利用が多いため汚損、破損している児童図書の買いなおしをしたり、学校巡回文庫の本を一部新しい本に入れ替えるなど、児童書の充実を図った。利用者数、貸出点数とも、減少してきていることが課題となっている。					
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進					
		利用者のニーズに合った図書資料を整備するとともに、郷土資料の収集にもより一層努め、地域情報の集約場所としての機能を維持し、魅力ある図書館づくりに繋げていく。博物館の展示や市の事業に合わせた特集コーナーを設けるなど、他課とも連携しながら利用促進を図っていく。また、資料の電子化を検討していくとともに、障がいのある方や高齢者、外国籍の市民等にも配慮し、読書の機会を拡充することも視野に入れた資料整備に努める。					
	令和2年度の目標	成果指標	目標値	単位			
		①市民一人当たりの貸出点数	8.5	点			